

学校閉鎖中の 子供たちの様子は



教育長

登校を楽しみにしていた

備前島久仁子



学校が再開され、元気よく通学する子供たち

質問

6月から各小中学校が再開した。学校閉鎖中、子供たちは家でのどのように学習し、過ごしていたのか。

答弁

教育長 学習を計画的に進められるように、学習の記録を残せる学習カードを配布した。また、課題を提出するために個別に登校する機会を設けた学校もあった。その際、学校の再開を楽しみにしている子

供の姿が多く見られ、保護者からは教職員にねぎらいや激励の言葉をいただいた。

この長期休業によって、子供も保護者も教職員も、学校の重要性やよさを改めて実感したと思う。

は 消防団再編計画の課題

質問

玉村町消防団は「自らの地域は自らで守る」とい

う強い使命感を持って、地域の安心・安全を見守ってくれている。しかし、消防団員の確保が困難になっていることや、各分団に配備されている車両や消防団詰所も老朽化が進んでいるため、10年をかけて現在の10個分団を5個分団へ再編する計画が策定された。

3・4分団が統合する南分団、9・10分団が統合する上陽分団が、第1期の再編として実施されるが、その内容は。

答弁

町長 南分団と上陽分団については、本年度から消防団や区長等と協議を開始し、再編期間である4年間で、詰所の場所や施設の規模の決定、設計、建設までを行う考えである。

質問

計画では、南分団と芝根分団の土地は、新規取得か公有地を利用するとある。公有地の候補はあるのか。

また、土地を選定する際の条件はあるのか。

答弁

環境安全課長 既存施設や公有地があれば考慮に入れ、なるべく地域の中心に建てられるような土地を選定していきたい。

今後新設する詰所は、消防ポンプ車と可搬ポンプ車が置けること、団員が詰所で待機ができる程度の規模の建物が建てられること。さらに、団員20名の駐車場も考慮して、車が10台は置ける広さの土地を確保したいと考えている。